

高松新聞

社開新常所行發
九五町南町平縣島福
次陸藤伊人行發
一港吉町濱名小縣島福

刊夕日四十月九
一ヶ月 三十錢
一ヶ月 二十錢
一ヶ月 十錢
一ヶ月 五錢
一ヶ月 三錢
一ヶ月 二錢
一ヶ月 一錢

某派違反事件 湯本町から檢舉

平署では去る十二日内郷村千名に達したと稱せられて
某を引致違反行為の確證があるが會期中にある「會員
集り更に十三日午前六時湯本町の選舉に際して會員
本署前某派事務所を襲ひ家以外のものに投票すること
宅搜索、會員名簿の他書類を得ず」とある、投票の際
を拘收、平町城山警察無罪をなすものと解釋され、
外交員鈴木剛(三)石城郡玉去の五日の告示前の選舉選
川村大河原今朝吉(三)同村動、並びに戸別訪問の違反
帶瀬清吉(三)外十三名檢舉事項に抵觸するに至つたも
され何れも身柄留置の上取の此の外、響應の事實も
調べられてゐる、尙取調、曝露してゐると見られ事件
身柄は送検された右は敷けは相當擴大性であり、縣議
月前から同派支部の擴大強戦に於ける地方最初の違反
化に努めた結果現在會員六として成行を注目される

護れ吾等の陸軍 演習召集令來る

九月十一日午前十一時十隊へ到着すべしとの旨、小
分福島陸隊區發達の演習召集令演習召集令第九聯隊へ
召集令が昨日町役場宛到着十月十一日午前十一時廿分
した、
右召集を受ける者左記三名 歩兵一等兵井川茂雄、小名
三ヶ日に亘つて漁船出入のによつてゐた同村源二郎三
役陸軍工兵一等兵志賀吉道第一聯隊豫備陸軍一等兵
君は十月十二日鐵道第一聯隊子力君の三名。

九月二十日の サンマ解禁を待つて

九月二十日の
サンマ解禁を待つて
警城九十八日頃出漁
愈々来る廿日にはサンマ
の解禁である、水産試験場
指導船警城九十八日頃に
からであらう。

漁業船歸港 來月一日の解期を 待つて出漁

カムチャツカ漁業に出航中の準備がしい
であつた江名、中之作兩港
の三十八隻の漁船は此の度
北海の湖を後に意氣揚々引
揚げた、歸港したこれら三
十八艘のゴヘイマキ船は來
月一日の解禁を待つて一
回公判は廿四日から開延、
勢に出動すべく目下地元の
船と港内に船体を並べて修
繕中である、殊に遠洋漁業
につかれ果てたカムチャツ
カ漁業船は船体の破損著
しく波浪と奮闘の後がし平
じしく波浪と奮闘の後がし平
じしく波浪と奮闘の後がし平

盗品處分を頼み 空巢二人組

去る三日夜石城郡内郷村大の足で平町正月町に居住す
字高坂大沼高治郎方に忍びる洋傘直し前科七犯宮原新
込み衣類三十三點(價格五次郎(三)を恐れ贓品處分
十餘圓)を窃取した犯人に依頼し承知を受けるや前
ついで平署で嚴重捜査中の記大沼氏方に忍び込み外平
處十三日午前二時頃茨城縣町、好間村、内郷村等に於
多賀郡磯原町字大塚住所不十一件の窃盗を働いてゐ
定前科二犯宮野吉(三)をたことを自白したため共犯
有力な容疑者として平署に者宮原も引致平署で餘罪取
檢舉取調べた處同人は七月調べを進めてゐる
中甸宮城刑務所を出獄し

赤津候補の運動員 親戚者が親戚者に 寄附を強要

今日南軍の主將赤津候補の
運動員が猛烈な運動中、候
補者の親戚某が親戚某に對
し寄附の強要をしたとして直
ちに署員に摘發され取調べ
の上今日、検事局に送られ
た由、尙詳細は後報

街の噂

十三日十數名の選舉違反だ。
者が平署に舉つたこの噂が
バットの擴まつた、ここの
二日來速かに往來者が多く
なり羽織を着た町村の顔役
らしき人々は殊に目を引く
様になつたのも選舉に漸く熱
を増して來た事を雄辯に物
語るもので冷靜の内は肅正
も好く守るが熱して來れば
地金の出るのは普通で、二
十日前後になれば熱病患者
の右往左往が今より目に見
える。選舉は戦争の域を脱
しない限り勝つ事が目的、
勝つ爲めには兵法も必要、
手段も要する、勝つては偉
人になれる、敗者は人格的
に選舉肅正を遵守しても敗
者は敗者としての苦惱が殘
る、勝つては官軍の優越は何
處迄行ても何事にもあて
はまる様だ。
違反を出さないで上手に合
法的に勝つこの兵法に則し
て進む事、所謂上手に立廻
る事選舉の全部がそれなの
だ。

全國天氣豫報 信號改正さる

小名瀨測候所では
九月一日より實施
の暴風警報規則が全國的に改
廢止されて、その代りに新小
名瀨測候所では九月一日
らに氣象警報と暴風警報日
の規則が制定され、従つて
従來の暴風警報の信號標も
順次廢止になり、昭和十二
年四月一日までは左の如
く、豫報は信號旗では示

漁だより

小名瀨 魚市場調査
魚名 魚獲高 單價割
スズキ 八〇貫 三五〇錢
イソナ 四五貫
一〇五貫一八〇錢
サッラ 四〇貫 一二〇錢
ニイソ 四〇〇貫一〇〇錢
入港數
スズキ船 二
アグリ船 三
夫馬船 十數隻
大敷船 二

記者一名採用す 希望者本人來談

記者一名採用す
希望者本人來談
日刊 常磐新聞社
されなが測候所貼布の掲
示その他印刷紙に依つて知
る事が出来る、
三角の旗は風向の豫報、長
方形の旗は天氣豫報、長
三角の旗は寒暖の變化の豫
報を示す、同じ形の旗が上下
に重ねて掲げられた時は上
の旗が先きに起る現象を示
す。例へば白い四角旗(晴)
の下に赤い四角旗(曇)が掲
げられれば、豫報は「晴後曇
(つゝ)」

國勢準備調査

九月二十六日、二十七日は照査票第一編より第五編迄世帯に付き調査に記入するものとす、九月二十八日照査票を町長に提出し其正否の検査を受け其世帯概数に依り申告書を受領す、
九月二十九日申告書を各世帯に配布し来る十月一日午前零時現在にて申告書を同日午前八時迄記載し置く様注意し置く事
九月三十日彙に提出したる豫習申告書は本日迄調査日完了し調査員に廻付す、此場合調査員は申告書に誤記等の訂正の事項は申告者に注意し本調査の際誤りなきを期す、
十月一日午前八時以後より各世帯に付き申告書を蒐集するものとす、此の場合統計會報第十五頁に實査に付ての事項に詳細あるを以て熟讀せられたし、十月二、三、四日、申告書各欄の記入を厳密に検査を行ひ不審の點は申告書に質問訂正す、男女別人員と申告書欄外の男女別とを對照檢算し不適合なきを期し通番號順に申告書を重ねて一括し照査表に通を添へ五日町長に提出するものとす、十月五日申告書の提出、但し海面調査區は豫習調査を行はず準備調査として九月廿八日入港中の船舶にして十月一日出港のもの其他四日迄出港入港の船舶を調査し申告書を徴するもの。

出張所の開設と準備

毎度多大の御引立に預り厚く御禮申上ます
昨年來種々準備に日を重ねて居りましたが大体手續を序しました、何卒本店同様御引立の程幾位にも御願ひ申上ます
◎親切 ◎丁寧 ◎配達迅速を期して
今後一段の勉強致します
船具 漁網 ロープ
ペンキ 塗料 各種
セメント 壁材 一式
度量衡器、計量器
ゴム合羽とゴム靴一式

舎 鹽屋商店

船具 漁具 各種
ペンキ 塗料 各種
度量衡器 計量器
ゴム合羽とゴム靴一式
小名濱町字古港二六
電話三十九番



流行歌は
東海林太郎氏



お子様には
七吋レコード 一枚二十五銭
唱歌、童謡、映畫説明
春日井梅鶯氏の
浪花節 一枚金六十銭より多数
蓄音器十五圓より各種
佐藤時計店
小名濱町

石城園平町一丁目

漆器 和久井屋漆器店

◎御引物品種々多数取揃ひお待申して居ります
是非御來店下さい
電話四〇五番

外科専門 レントゲン科

上田科外醫院

病室の設備有り入院應需
ミシン生徒募集
平町二丁目二番地

磐城女子洋裁専門學院

入學毎月初め規則書呈す

淋丹

きゝめでうれる 淋丹 十日分
病薬 淋丹 十日分
販賣元 小名濱町中島通
電話三三番
シライシヤクホ



呉服類は
樋口呉服店
小名濱町中島通り

一般外科 (整形外科)
内科 花柳病科

草野醫院

小名濱町
電話一七三番

内科、小兒科
婦人科、花柳科

久保田醫院

小名濱町
電話二二番

藥材衛生 藥
舖藥屋寶
港古町濱名小
番九三話電

醉雪

銘酒以上の理研酒
多少共御試飲願います
壹升壹圓
販賣店 加藤屋商店
小名濱町中町

難波醫院

醫學博士 難波 睦
平町大町七番地

球撞 ドーヤリビ 波金

各中學生
各小學生徒
制服揃へました
江島屋洋服店
平町二丁目
電話八九番
(ヤキユウ)
是非當店へ御用命の程